

1

トラック4 おじさん、イジワルしてもいい？

右耳近く

（akr_0280）あかり「おじさん……おじさん、目を開けて？
おじさん……おじさん……っ」

正面近く

（akr_0281）あかり「……あ……よかった。急に動かなくなっちゃったから……
何かあったのかと思って……」
（akr_0282）あかり「……どうしよう……おじさん、すごい疲れた顔してる……
働いてた頃といっしょ……いつも夜遅くに帰ってきて、
今みたいな顔してた……」

右耳近く

（akr_0283）あかり「え……どこでおじさんの帰りを見てたかって？ それは……
ないしょ……でも、おじさんのことならなんでもわかるよ」
（akr_0284）あかり「疲れてるのは……あかりが毎日、
おじさんのおちんぼ触ってるからだよね……
あっ、言ってるそばから触っちゃってる……っ」

右耳囁き

（akr_0285）あかり「なんか……おじさんのおちんぼ触つてると、安心して……
柔らかいときもぷにぷにしててかわいいし、
硬くなってくれたら嬉しいし、一日中触つても飽きないの」
（akr_0286）あかり「ふふっ、少し硬くなってきた……おじさんのおちんぼ……
まだ柔らかいからおちんちんかな？
これ、ほんとかわいい……あかり、だいすき……」
（akr_0287）あかり「実は、おじさんが寝てる間もこっそり触ってるから、
こうやって握ってないと……お手々が寂しく感じるの……」
（akr_0288）あかり「あかり、もうおじさんのおちんちんなしじゃ
生きていけないみたい……でも、そのせいでおじさんが
疲れちゃうのは困る……」
（akr_0289）あかり「あかりがおしっこについていってるのが悪いのかな？」
（akr_0290）あかり「毎回、おしっこ前におちんぼからぴゅっぴゅって
させてるのがいけない気がするの……
おじさん、白いネバネバを出したあと、いっつもぐったり
してるから……」

（ akf_0291 ） あかり「 けど、そういうおじさんをそばで支えてるとね、あかりすごく幸せな気持ちになるんだよ。……おじさんが、その時だけはあかりを必要としてくれてるってわかるから」

（ akf_0292 ） あかり「 それでね、もつと必要とされたくて……最近は、1 回のおしっこで2 度も3 度もぴゅっぴゅってさせちゃってる……」

（ akf_0293 ） あかり「 おじさんが頑張って出してくれるから、あかりも嬉しくて……あ……話してたら、また出すところ見たくなっちゃった……」

（ akf_0294 ） あかり「 ……平気だよ。少しさみしいけど、おじさんが元気になるまでおちんぼのぴゅっぴゅっは我慢する……働いてる時より疲れちゃったら、あかりがここへ来た意味がなくなっちゃうもん……」

（ akf_0295 ） あかり「 あかりね、おじさんには幸せになってほしいの……悲しい思いとか、ツライ思いとかしてほしくない……」

（ akf_0296 ） あかり「 おじさんは気付いてなかったと思うけど、働いて夜中にあかりの前を通るとき……いつもため息をついてたんだよ？」

（ akf_0297 ） あかり「 そんな姿を見てたら……放っておけなくなって……それで勇気を出して、ここへ来てみたの……」

（ akf_0298 ） あかり「 ……それに、おじさんのことは子供の頃から知ってるよ？ずとずと……おじさんがおじさんじゃない頃から、あかりは見つめてきたの……」

（ akf_0299 ） あかり「 だから、おじさんが優しい人だっていうのも知ってる……今だって……もしあかりがおちんぼからぴゅっぴゅっするのを見せてって頼んだら……がんばってくれるでしょう？」

（ akf_0300 ） あかり「 おじさんはがんばりすぎちゃうから、働くのも手を抜けなかったんだよね……おじさんのそういうところ、すごく素敵だと思う……」

（ akf_0301 ） あかり「 ……それに甘えて、あかり調子に乗り過ぎちゃった。今は反省してるの……ほんとだよ？」

（ akf_0302 ） あかり「 あかりは、おじさんの疲れてる顔は見たくないから……これからは、おちんぼからぴゅっぴゅしたくない時は、正直に言ってね？」

（ akf_0303 ） あかり「 あかりだって、我慢できるし……こうやってくっついてるだけで……心がぼかぼかするから……」

正面近く

（akr_0304）あかり「……おじさんも……ぽかぽかしてる？」

ん……ちゅっ……ちゅっ……おじさんの顔にいっぱい
キスしちゃう……ちゅっ……ちゅっちゅっちゅっちゅっ……」

（akr_0305）あかり「……もう、おじさんさっきからおちんぽビクンビクン跳ねてるよ？ また触りたくなっっちゃうからダメ……おちんぽ、じっとしてて……」

（akr_0306）あかり「ちゅっ……ん、ちゅっ、ちゅっ……んーっ！ おじさん、おちんぽダメだってばあ……今度はあかりの太ももに、びたんびたんしてる……」

（akr_0307）あかり「あ……でも寝起きだから、おしっこ溜まってる？ 毎朝、いっぱい出てるもんね……おしっこも……白いぴゅっぴゅも……」

（akr_0308）あかり「あとで一緒に出しにいこうね……あかり、おじさんがおしっこしてるところを見るの好きだから……」

（akr_0309）あかり「ふふっ……まだおねむみたいだね……今日はどんな風に起こそうかな……何かこうしてほしいとかある……？」

左耳囁き

（akr_0310）あかり「……黙ってたなら、あかりのしたいようにしちゃうよ？」

（akr_0311）あかり「あかりね……最初の頃と比べたら、キスが上手くなったと思うの……おじさんにたくさん気持ちいいキス教えてもらったから……」

正面近く

（akr_0312）あかり「ちゅっ……ん……ちゅう……おじさん……ベロ……らひて……ん、ぴちゅ……ちゅう……ちゅう、ちゅう……ん……こうやつれ……おじさんのベロを吸うの……たのひい……」

（akr_0313）あかり「んん、ちゅうう……はあ、れろっ……ちゅう、んちゅ……ちゅっちゅっちゅううっ……はあ、ベロとベロが……こふれあつて……にゆるんってなるの……すく……きもひいいの……」

（akr_0314）あかり「ちゅっ……れろっ……はあ、んちゅ……れろ……んちゅ……れろれろれろ……ちゅうう……はあ、んちゅ……れろっ……ぴちゅ……ちゅう、んんっ……はあ、ちゅううう、ぽっ……」

正面近く(前ページの続き)

(akf_0315) あかり「……どうしたの、おじさん？ さっきから、あかりの太ももにおちんぼ擦りつけてきて……おしっこしたいなら、おトイレに行かなきゃダメでしょ……？」

左耳囁き

(akf_0316) あかり「……ふふっ。おちんぼ、触ってほしくなっちゃったのかな？ ほら……もうこんなに硬くなってる……でも太ももを擦りつけるだけで終わり……手で触るのは我慢してね……」

正面近く(左耳から移動しながら)

(akf_0317) あかり「その分、気持ちいいキス……ん、ちゅ……はあ、いっぱい……しゅる……んちゅ……ちゅっ……はあ、れろっ……ん、ちゅう……ちゅっ……れろっ、れろれろれろっ……」

(akf_0318) あかり「んちゅ……ちゅう……れろっ、はあ……ちゅう……ん……はあ……そんなにおちんぼ押しつけてきても……触ってあげないよ……？」

(akf_0319) あかり「あかりだって触りたいの我慢してるんだから……おじさんも、がんばって我慢しないと……ね？」

(akf_0320) あかり「ちゅう、はあ……おじさん、ペロらふいて……ん、はあ、む……ちゅうう……んちゅ、ちゅっちゅうっちゅうううっ、んふ……んんっ……はあ、れろれろれろれろっ……れろっ……」

(akf_0321) あかり「んん……おじさん、あかりのツバ……飲んでくれる？ん……ぴちゃ、はあっ……んんっ……んんーっ……ふふっ、なんか……こんな気持ち……初めて……」

(akf_0322) あかり「おじさんが……あかりだけのモノになった気がして……んん、ちゅ……はあ、おじさんのツバも……ちよーらいっ……ん、ちゅっ……はあ、んんっ、んくっ……んんっ、んぐっ……はあ、おじさんはどう？」

(akf_0323) あかり「あかりにツバを飲ませると……不思議な気持ちになる？……もお、そんなに激しくおちんぼ擦りつけてきたら痛くなっちゃうよ？」

(akf_0324) あかり「そうだ……おじさんのおちんぼ、すごく熱くなってるから……熱が冷めるように、ふーふーしてあげようか？」

右耳囁き

（akr_0325）あかり「こんな風に……いくよ？ 耳をおちんぼだと思ってね……
ふー……ふー……（右耳囁き）こっちの耳にも……ふー……
ふーふー……」

正面近く

（akr_0326）あかり「おじさん、すごいだらしない顔してるよ……
カラダの力が抜けて、ふにやふにやになっちゃったね……
なのに、おちんぼはこんなに力チ力チ……あかりの太ももに
こすれて、爆発しちやいそうになってる……」

（akr_0327）あかり「そんなにおちんぼ触ってほしい？
白いの、びゅっびゅしたくなっちゃったの？」

（akr_0328）あかり「ふふっ……そんなに何度も頷いて、おじさんかわいい……
最近ね、あかりおかしいの……おじさんのこと好きだから、
いつも優しくしたいって思ってるのに……」

（akr_0329）あかり「おちんぼ触ってほしそうにしてるおじさんを見てるとね……
なんか……大好きなのに……
メチャクチャにしたくなっちゃって……」

（akr_0330）あかり「どうしてこんな風に思っちゃうのかな……
おじさんは同じように思ったことある？ あかりのこと……
メチャクチャにしたいって……」

左耳囁き

（akr_0331）あかり「……おじさん今、しまった！ って顔してたよ？ やっぱり、
そう思ったことあるんだ？ あかりをメチャクチャにしたい
って考えながら……おちんぼ、硬くしてたの？ そうなの、
おじさん？」

（akr_0332）あかり「でも、それは叶わないね……くす、だつてあかりの方が先に、
おじさんをメチャクチャにしちゃうから……今より、もつと
あかりに夢中にさせたい……あかりのことしか考えられなくな
って……毎日、こんな小さな女の子にメチャクチャにされ
ちゃうの……」

（akr_0333）あかり「ふふっ……どうして酷いことばかり言ってるのに、おじさん
はさつきよりおちんぼ硬くしてるの……？
いくら押しつけてきても、今日は触ってあげないよ？
何だか、そういう気分なの。おじさんにイジワルしたい……」

（akr_0334）あかり「うん……うん……おちんぼ触ってほしいよね？ 先っぽから
又ル又ルがでてきちゃってるよ？
あかりの太ももを濡らしてるのわかる？」

	左耳囁き（前ページの続き）
	（ akf_0335） あかり「このヌルヌルが出るのって……白いのをぴゅっぴゅしたいっていう意味なんでしょう？」 「いっつも、おちんぽから出す前に、こうやって先っぽを濡らしたもんね……」
	（ akf_0336） あかり「もう我慢できない？ イジワルなんてしないで、早くぴゅっぴゅさせてほしい？」
	（ akf_0337） あかり「じゃあ……これからあかりが質問するから、それに答えて？ 正直にだよ？」
	（ akf_0338） あかり「おじさんは……前みたいに、毎日ヘトヘトになるまで働くのと、あかりにおちんぽ触ってもらうのどっちを選ぶ？」
	（ akf_0339） あかり「……ん？ 声が小さくて、聞こえなかったよ？ もっと、おっきな声で……」
	（ akf_0340） あかり「働きたいの？ おちんぽ、触ってほしいの？」
	（ akf_0341） あかり「太ももに擦りつけてくるだけじゃわからないよ？ ねえ、どっち？ 今から働きにいきたい？ おちんぽから、ぴゅっぴゅしたい？」
	正面近く（移動しながら）
	（ akf_0342） あかり「……くす、働きたくはないんだ？ もう一度、あかりの目を見て言ってみて？ 働きたくないんだよね？ おちんぽ、触ってほしいんだよね？」
右耳囁き	
	（ akf_0343） あかり「あーあ、おじさんダメになっちゃったね……働かないで、毎日あかりにおちんぽぴゅっぴゅさせてほしいんだ？」
	（ akf_0344） あかり「正直に答えてくれたから……イジワルはここまでにして……今度は、おじさんのおちんぽをイジメてあげるね……」
	（ akf_0345） あかり「今さら、腰を後ろに逃がしてもダメ……今日のあかりは優しくないよ？ ほら……おちんぽ、こんなに嬉しそうに跳ねてるじゃん……」
	（ akf_0346） あかり「こうしてほしかったんでしょう？ 先っぽを乱暴にぐちゅぐちゅされるの、好きなんだもんね？」
	（ akf_0347） あかり「あかりもこうするの好き……おじさんがおちんぽ硬くしてくれると、嬉しくて止まらなくなっちゃう……」

右耳囁き（前ページの続き）

（ akr_0348） あかり「今度は太ももじゃなくて、あかりの手におちんぼ押しつけてきて？ …ふふっ、すごいすごい……そんなに必死になって腰を動かすの初めて見た……おじさん、かわいすぎてあかりどうにかなっっちゃいそう……」

（ akr_0349） あかり「ん……んっ……見える、おじさん？

おちんぼの先、こんなに真っ赤になってる……ほら……

ほらほらほら……音もこんなに大きく……

おちんぼ、白く泡立ってきちゃってるね……

（ akr_0350） あかり「おじさん、すごく気持ちよさそうな顔してる……嬉しいよね、

ずっとこうしてほしかったんだもんね……

ふふっ、またおちんぼお腹にビタンってなってる……ねえ、見てて……ほら……ふふっ、もう一回……

おじさんのおちんぼ、元気でちゅねー？」

（ akr_0351） あかり「まだおつきくなれる？ あかり、おじさんがもっとがんばってるところ見たいなあ……」

左耳囁き（右耳から移動しながら）

（ akr_0352） あかり「ん……んん……あかりにつかまっていいよ……ぎゅうってして……んん……ん、ふふっ……小さな子供みたいにしがみついてきてかわいい……おじさん、このまま狂っちゃいなよ……また女の子みたいな声も聴きたい……」

（ akr_0353） あかり「あかりですら出さないようなかわいい声……おちんぼ、ぐちゅぐちゅしたら聴かせてくれる？ こんな風に……ほら……おじさん、声……聴かせてよ……」

（ akr_0354） あかり「んん……んん……んっ……今日はかすれた声なんだね……でも、それも好き……あかり……興奮してきちゃった……ん……そろそろ出す？ あかりの手にぴゅっぴゅしてくれる？」

（ akr_0355） あかり「手の中で熱いのが広がっていくの……大好き……あかりの手でおじさんを感じたいの……」

（ akr_0356） あかり「あかりがそばで見ててあげるからあ……今日も元気にぴゅっぴゅして？ ああ、すごい……おじさんの硬い……おつきい……んんっ、んっ……いいよ、おじさん……そのままぴゅっぴゅして……あかりに手におちんぼ押しつけたまま……んんっ、んっ、んんっー？」

(akf_0357) あかり「んっ、あ……ああっ、出てる……おちんぽから……勢い……
すごい……ん、はあ……でも……ぴゅっぴゅ止めたら
ダメっ……ずっと出してっ……おちんぽから白いのっ……
まだ出るよね？ おじさんのおちんぽ、何回でも出せるんだ
もんね？」

(akf_0358) あかり「んんっ……おちんぽっ、逃がさないよっ……
今日はメチャクチャにするって言ったでしょ？
ああ、これ……白い塊みたいなの……指に絡みついて……
いつもより濃いのに、いっぱい出てる……」

(akf_0359) あかり「ふふっ、おじさんあーあーしか言えなくなっちゃったねえ……
言葉を忘れちゃったのかな……それとも……まだ会話が
できない赤ん坊さんなのかな……？」

(akf_0360) あかり「狂っちゃえばいいよ、おじさん……おちんぽメチャクチャに
されて興奮してるんだもんね？ くすぐりたいとか言ってた
のに、気持ちよくなっちゃったんだもんね？」

(akf_0361) あかり「ほら、ぴゅっぴゅが止まってきたよ？ 止めないでって
言ったでしょう？ あかりがいいって言うまで、ぴゅっぴゅ
し続けるの……んんっ、んっ……えっ？
おちんぽ壊れちゃう？ ……壊れちゃえばいいじゃん」

正面近く(移動しながら)

(akf_0362) あかり「あかりが壊してあげるよ、おじさんのおちんぽ……ほら、
ほら、もっと出してっ……ぴゅっぴゅを続けるのっ……
んちゅっ、れろっ、ちゅう……んちゅっ、ぢゅるっ、はあ……
ペロも出してっ……ん、はむっ、んちゅっ、んぢゅ、ぢゅる
ぢゅるぢゅるっ、んぢゅる、ぢゅるるるう……」

(akf_0363) あかり「んぢゅっう、ぢゅううっ、ちゅっ……ぽっ！ はあっ……
んぢゅっ、はあ、きふしたら……
おちんぽ、また硬くなっらよ……んぢゅっ、ぢゅうう、
ぢゅるっ……んぢゅっ、ぢゅるるっ、んぢゅぢゅ、
ぢゅううう……」

(akf_0364) あかり「ぢゅっ、はあ……んんっ……もう無理じゃなくて……
出すのっ……おちんぽから、みんなみーんな出すのっ……
こうやって……根元からっ、搾ればっ……んんっ、んんっ、
んん！ ほらあ……またぴゅっぴゅした……おじさんのお
ちんぽ、すごいねえ……かわいいねえ……」

左耳囁き

(akf_0365) あかり「もっと、あかりに狂って……今思うと働いてた頃の自分がバカみたいでしょう？ どうしてあんなツライことしてたんだろうって……もう、二度と働かなくていいんだからね……お家でずううっとおちんぽからぴゅっぴゅして……二人でバカになっちゃおう……?」

(akf_0366) あかり「んっ、んっ、んあっ……ふっ、 おちんぽのぴゅっぴゅでお返事してくれたんだ……
空っぽになるまで出しちゃおうね……
もう一回……お返事は?」

(akf_0367) あかり「ふっ、ふっ……おじさんのおちんぽ、ほんとにかわいい……もうぜったい放さないもん……これはあかりのものだよ? あかり以外には触らせちゃダメだからね?」

右耳囁き

(akf_0368) あかり「ほら……お、へ、ん、じ、は?」

(akf_0369) あかり「ふっ……えらいね、おじさん。よくできました……
ちゅっ♪ 少し休んだら……またぴゅっぴゅしようね?
一日中、頭がおかしくなるまであかりの手でえ……
ぴゅっぴゅ♪ ぴゅっぴゅっ♪ ……ね?」

※トラック5へ